

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年5月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0272400540		
法人名	有限会社恵成		
事業所名	グループホームすい賓荘		
所在地 (電話番号)	〒037-0514 青森県北津軽郡中泊町小泊浜野61-1 (電話) 0173-64-3018		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年3月12日	評価確定日	平成22年5月7日

【情報提供票より】(平成 21年 11月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,040 円	その他の経費(月額)	冬期5,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 780 円			

(4) 利用者の概要(11月 20日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 83.6 歳	最低	76 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中泊町国民健康保険小泊診療所
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、漁業の盛んな地域の民家の中心となる位置にあり、近隣住民との交流が多く、魚や野菜、山菜等の差し入れがあり、気軽な隣同士という関係となっている。また、利用者・職員とも地元出身者が多く、入居する以前から交流を持っている利用者もあり、施設独特な雰囲気は無く、家族的な環境の中で生活している。家族や近隣住民の協力も得られ、積極的に外部との連携も行っている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価で改善課題となっていた、マニュアルの見直しに関しては、新たな感染症に関しても職員間で勉強会を開催し、予防に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に関しては、職員間で意見を出し合いながら取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を活かすため、家族へも開催案内を送付している。事業所からは利用者の状況報告や行事の報告をしている。町内会会長や地域の方、家族会の皆さんにも参加してもらい、意見を聞いている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>玄関に意見箱を設置している。また、家族からは面会時の会話から意見等を引き出すように努めている。苦情・意見があった場合はすぐに職員会議で話し合われている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣との交流はとて多く、地域の行事にも招待されることが多くあり、積極的に参加され地域との交流を図っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所名の由来は中国の古典よりとったもので、またそれを独自の理念と捉え、「やわらかくお客様をもてなし、やすらぎを与える」という地域の中で安心して暮らしていけるという理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やフロアーに理念が掲示されている。また、職員会議等でも理念について話し合い、振り返りを行って理念を理解しており、職員皆で日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近所の方が野菜を持ってきたり、認知症やグループホームについて相談しにきたり、気軽に立ち寄ってもらえる関係である。また、職員は食生活改善推進委員、保健協力委員として地域活動に参加したり、事業所内で年1回運営委員、近所の住民、家族にお知らせし、研修会を開く等して積極的に地域交流・貢献に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全職員が評価の意義・目的を理解し、全職員で自己評価に取り組み作成している。評価後も改善点を会議で検討し改善につなげている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催し、参加者は町内会長、家族、民生委員、運営委員、地域包括支援センター職員で、会議では評価の結果や、事業所の実情等を報告して意見をもらっている。会議後は報告書を作成し職員で話し合い、サービスの向上に活かすように努めている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>何か問題があった時や悩みがあればすぐに電話して相談し連携を図っている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域包括支援センターから職員が来て、事業所で権利擁護に関する研修会を開き、全職員が理解できるようにし、必要な時は活用できるように努めている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待に関する研修に参加した職員が職員会議にて報告し、全職員で勉強し虐待のないケアに努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時には重要事項説明書にて十分に説明され、納得してもらい契約を結んでいる。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>病院受診時等の状況報告はその都度電話で報告している。また、日々の暮らしについては2ヶ月に1回発行しているホーム便りや、面会時に報告している。金銭管理に関しては請求書を出す時に一緒に送付し報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。また、家族からは面会時の会話から意見等を引き出すように努めている。苦情・意見があった場合はすぐに職員会議で話し合われている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が離職する際は利用者に報告しダメージがないよう配慮している。職員は地域からの採用者がほとんどで、なじみの関係がつけられている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはなるべく多くの職員が参加できるように配慮し、研修参加後は月1回の職員会議で報告している。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームと交流を持ち、お互いの行事に参加したり、情報交換をしサービスの質の向上に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心してサービスが受けられるように、入居前に本人、家族に見学に来てもらったりしている。また、家族と一緒に泊まったり、食事をする事ができ、利用者が早く馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に雑巾縫いや食事をしたり、できない事はお互い支え合いながら利用者を尊重する関係が築かれている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者の行動、表情、会話等から意向を把握したり、家族から情報を得ながら意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族と十分に話し合って作成している。また、会議以外でも職員同士が意見交換し、その意見を介護計画に反映し作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回は見直しがされ、状態変化時はその都度家族にも電話等で相談しながら見直しをし、新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会時の送迎、通院時の送迎、家族の宿泊など柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と相談し入居前からのかかりつけ医に受診できるように支援している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については対応していないが、重度化した場合は職員会議で話し合い、かかりつけ医、家族と相談しながら全職員で情報を共有し対応している。家族と相談し退居後の支援も行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は地域からの採用者で利用者と親しい関係であり、言葉が雑になったりすることもあるが、その都度注意しながら対応に心がけている。		認知症、難聴等の利用者の対応を理解することでさらに自尊心を傷つけないような言葉掛けができるので、職員で話し合い対応していくことに期待したい。
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっているが、本人の意思を尊重して無理強いすることなく自由に過ごしていただき、本人のペースに合わせた支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜の皮むき等の下ごしらえや食後の食器拭きを一緒に行っている。また、地元で採れた食材を取り入れたり、職員と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週2回と入浴日は決まっているが、利用者の体調に合わせて入浴日をずらしたり、足浴したり、汗をかいた方にはシャワー浴をしたり柔軟に対応している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>カラオケ、野菜作り、あみもの等、個々の希望を取り入れ、張り合いのある日々を過ごせるように支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>地域の行事、買い物、ドライブ、散歩など希望を取り入れ、外出支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について会議で話し合い、職員は身体拘束について理解している。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜は鍵をかけているが、日中は見守りする等し、鍵をかけないよう取り組んでいる。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行っている。運営推進会議では災害時に近所の方に協力して頂けるように呼びかけている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	地域の食生活改善推進委員となっている職員がおり、保健師に食事バランスについてアドバイスをもらっている。また、利用者の普段の食事量、水分量は把握しており、体調が悪い利用者に関しては水分・食事チェックを行い把握に努めている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいを徹底したり、感染症の勉強会を開催している。また、感染症に関する最新情報があれば回覧して職員全員で情報を共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有スペースは明るく、ソファが置かれており皆でテレビを見ながらくつろげる空間作りがされている。また、行事の写真や季節の飾りつけ等があり、季節を感じられるように工夫されている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人、家族と相談しながら、自宅で使っていた家具や仏壇等を自由に持ってきていただき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		

 は、重点項目。